オリジナルティーチングプラン

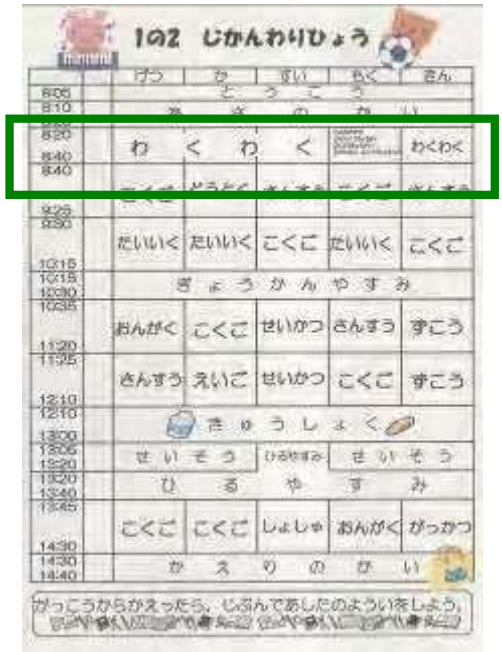
オリジナルティーチングプランの実践

遊びの中から言語力の向上を目指す取組み

守谷市立大井沢小学校　古谷　美樹

1　はじめに

現行の学習指導要領においては，言語活動の充実が大きな柱になっている。本校では，これを受けて，平成２２年度より「自分の考えをもち，表現できる児童の育成」を研究テーマにした取り組みを始めた。研究を始めた当初は，言語力そのものを向上させることに重点をおいていた。また，児童の実態から，学習意欲の喚起も大きな課題と考え，時程表の中に「わくわく授業」を位置づけることにした。「わくわく授業」とは８時２０分から８時４０分の２０分間の活動である。活動の趣旨は，「児童がわくわくする活動であり，１校時の授業への学習意欲につなぐ」というものである。「わくわく授業」の中の水曜日を，全校で取り組む言語活動に関する活動の日とし，「わくわくことのは水曜日」と名付け，言語活動の基盤となる国語に関する活動を実践していくことにした。



平成２４年度の時間割

2　実践

（1）「わくわくことのは水曜日」の主な活動内容

「わくわくことのは水曜日」で取り組んできた主な活動である。職員の共通理解のもと，全校で取り組むことが大切であると考えた。

１学期	２学期	３学期
＜読　む＞	＜書　く＞	＜作　る＞
・音読（教科書以外の文，古典　など）	・単作文，作文	・川柳
・暗唱テスト	・視写	・俳句
・国語辞典での意味調べ	・感想文	・短歌
・読書	・本の紹介文　など	・詩　など
・かるた，百人一首　など	・新聞のコラムへの意見	※「読む」「書く」活動も入れながら
	※「読む」活動も入れながら	

主な活動例であり，学年の実態や学習内容との関連を図りながら，工夫ある活動に努めた。

（2）オリジナルティーチングプランを活用した用具

上記の活動を進める中で，かるたや百人一首の数が児童の数を考えても，圧倒的に不足していることが課題になった。そこで，オリジナルティーチングプランでの支援をいただくことを考えた。下記に記した物が，今年度初めに揃えた物である。

①　ことわざいろはがるた

②　ことわざいろはがるた２集

③　百人一首

これらの教具については，どの職員も気軽に活用できるように，「わくわくことのは」に関連する教具と一緒に職員室の棚に整理して置くようにした。

守谷市には，「もりやかるた」という素晴らしいかるたがある。「もりやかるた」は，地域学習と関連づけて，社会科や総合学習で活用しており，ことば遊びで活用する「ことわざかるた」「百人一首」とは，用途を分けている。

わくわくことのは専用棚

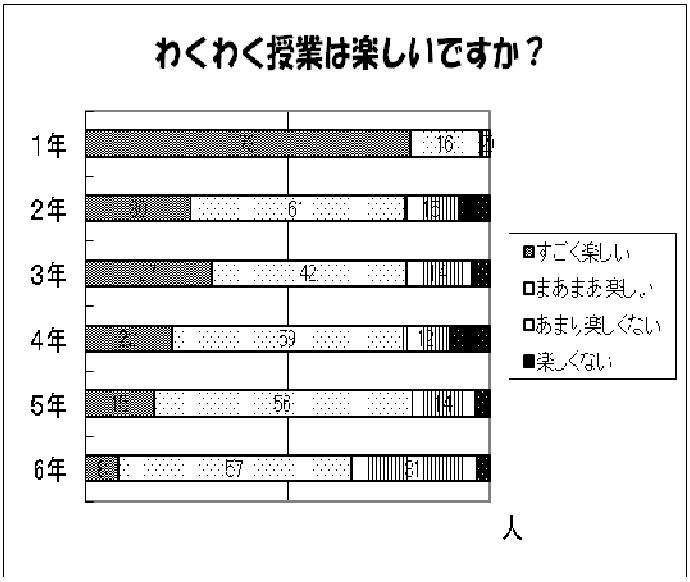
右の写真は，「わくわくことのは水曜日」のかるた遊びの様子である。１年生でも，グループになり読み手と取り手に分かれて楽しく活動をすることができる。遊びの中でことばを増やすことができるので，とても有効である。

かるた遊びの様子

３　考察

かるたや百人一首の数を増やせたことで，活用回数が増え充実した活動ができるようになった。活動を重ねることで，ことばを覚えたり意味の分からないことばに興味をもったりもできるようになってきた。遊びを通した活動なので，楽しくできることがなんと言っても本校の「わくわく授業」の趣旨に合っていると感じた。

児童にも，定期的にわくわく授業についてのアンケートを実施している。下記の結果は，１学期末に集計したものである。



どんな学習が楽しかったですか？

1年…音読・川柳作り
2年…音読・作文・暗唱・川柳・辞書活動
3年…音読・<u>かるた</u>・言葉あそび・作文・川柳・辞書活動・昔話音読クイズ
4年…音読・<u>かるた</u>・川柳・辞書活動
5年…音読・<u>かるた</u>・川柳・言葉あそび・作文・辞書活動
6年…川柳・漢字サイコロ・辞書活動・<u>百人一首</u>

下学年の児童を中心に，「わくわくことのはが楽しい」と答えている。３年生以上では，かるた遊びや百人一首が楽しかったと回答している。ことば遊びを通した活動が，着実に児童の中に根づいていることが分かる。

４　課題

根づき始めた活動を言語力の向上に結びつけていくためにも，今後もことば遊び活動を継続していくことが大切だと感じている。また，ことば遊びを国語の学習とも関連づけて，さらに積極的にかるたや百人一首を活用していきたい。ことわざや百人一首の暗唱，ことわざを使った短文づくりや和歌の作品づくりなど，活動も広げていきたいと考えている。

基礎基本の定着を目指した学習支援

～ＳＵＮサンタイム，オープンルーム（算数）の実施～

守谷市立守谷小学校　担当　石塚　行男

１　はじめに

本校では，基礎基本の確実な定着を目指して「オープンルーム」と「ＳＵＮサンタイム」の学習支援を実施している。「オープンルーム」は４年生の希望者を対象に算数の個別支援を行うものである。また，「ＳＵＮサンタイム」は，学習ボランティアの「まるつけ先生」にお手伝いをいただき，計算力と学習意欲の向上を図っている。

２　実践

(1)　ＳＵＮサンタイム

○ねらい

学習ボランティアの協力のもと，習熟度に応じた指導を行うことで児童の計算力及び学習意欲の向上を図る。

○内　容

算数の基礎学力向上を目指した繰り返し学習の時間とする。担任教師と担任外の全教師が支援に当たる。保護者から 学習ボランティア「まるつけ先生」を募集し，プリントの採点などの支援に協力をいただく。

対　象　全児童

場　所　各教室

時　間　原則第１，第３金曜日の自習の時間

担　当　全職員，学習ボランティア「まるつけ先生」

○実施までの流れ

４月　２６日　保護者ボランティアの募集

５月　２５日　保護者ボランティア決定

６月　１日　第１回「ＳＵＮサンタイム」開始

○実施計画

回	月	日	曜日	時間
1	６月	１日	金	8:20 ～ 8:40
2		１５日	金	8:20 ～ 8:40
3	７月	６日	金	8:20 ～ 8:40
4	９月	７日	金	8:20 ～ 8:40
5		１４日	金	8:20 ～ 8:40
6	１０月	１２日	金	8:20 ～ 8:40
7		２６日	金	8:20 ～ 8:40
8	１１月	２日	金	8:20 ～ 8:40
9		１６日	金	8:20 ～ 8:40
10	１２月	７日	金	8:20 ～ 8:40
11	１月	１８日	金	8:20 ～ 8:40
12	２月	１日	金	8:20 ～ 8:40
13		１５日	金	8:20 ～ 8:40
14	３月	１日	金	8:20 ～ 8:40

(2) オープンルーム

○ねらい

朝自習の時間を利用し，３年生までの計算の復習をすることにより基礎基本の定着を図る。

○実施方法・内容について

算数オープンルーム

・４年生の希望者（希望者以外は読書）

・四則計算の復習（２，３年生の及び４年生の内容の１部）プリント，テスト

学年	４年生
場所	１階少人数教室
時間	原則第２，第４金曜日の朝の自習時間
担当	秋山，佐々木，田谷，茂呂，奈幡，大熊

○実施の流れ

４月２０日申込書配布（４年生全員）

４月２７日申込書回収

４月２４日～準備開始

・名簿作成・（ファイル購入，集金はテスト実施後）

・教材準備・印刷

５月～オープンルーム実施

学年末に個人の学習ファイルを返却

・最終日に振り返りカード記入。

・担当者がコメント記入。

・学級担任を通して保護者にコメントをもらう。

・学期末に回収，学校で保管する。

○実施計画

実施日	内　容	実施日	内　容
＊５月第２週	テスト	１１月	たしざん・かけざん
５月第４週	たしざん・かけざん	１２月	ひきざん・わりざん
６月	ひきざん・わりざん	１月	単位の換算
７月	テスト	２月	単位の換算
９月	たしざん・かけざん	３月	四則計算テスト
１０月	ひきざん・わりざん		

３　成果

・昨年度までは，「オープンルーム」を昼休みに設定していたため，行事等の練習，準備などで十分な期日の確保ができず，不定期の実施となっていた。今年度は，朝の自習時間を利用することで十分な練習時間を確保することができた。

・「ＳＵＮサンタイム」の学習ボランティアの「まるつけ先生」は，子どもたちにとって身近な存在となっており，丸を付けてもらうことを楽しみにしている。児童の学習意欲の高まりが見られ，課題に集中して取り組むことができた。

４　課題

・「ＳＵＮサンタイム」は，主に計算力の向上を目指して取り組んでいるが，高学年に於いてマンネリ化している面がある。取り組む課題の工夫が必要である。また，学習ボランティアが不足しており，学習ボランティアの確保が課題となっている。

※学習ボランティアの「まるつけ先生」は，現在１～４年生まで

オリジナルティーチングプランの実践

守谷市立松ケ丘小学校　朝倉　　史

1　はじめに

本活動は，被災地に「勇気の木」をおくる活動を通して自発的，自治的な児童会を展開することをねらいとした。このねらいを達成するために系統性を意識した２つの活動を実践した。

2　実践

活動１：学級での話合い活動

柱１：勇気の木をおくる活動

・勇気の木にメッセージをつけて送ろう。
・ビデオレターを一緒に送ろう。
・手紙を一緒に送ろう。

柱２：支援物資をおくるための活動

・募金活動を児童会へ提案しよう。
・募金活動をしよう。

系統性

活動２：児童会を中心とした事後の活動

①　学級から代表委員会への提案

②　代表委員会での検討
・全校児童への募金活動のよびかけ
・募金活動をする委員会の選出
・被災地の小学校の選出
・支援物資の選出

③　募金活動
募金額７６，４３８円

④　支援物資の搬送
・電動クリーナー・ウォータージャグ
・カンナ・充電式電池・温室計

3　考察

東日本大震災で被災した事実は，強い地震の揺れを経験した本校の児童にとっても切実な問題であった。そのために，学校外の被災地に集団活動の幅を広げることは話合い活動への意欲を高め，事後の活動を活性化することにつながった。一人一人が心から被災地のことを考え，自分にできることはどんなことなのかを深く見つめ合う時間を通して，自己の生き方や社会との関わりを意識させ多様な価値観を高めることができた。

学級活動から児童会活動へと活動内容を提案・計画・実行と練り上げていった経験も，児童の自主性と委員会の活動内容の質を高める成果となった。被災地への思いを行動にあらわした募金活動からは自発的・自治的な活動への意欲が高まった児童の姿がみられた。

4　課題

被災地復興の現状を考えると本活動を継続していくことが課題である。特に，児童や保護者，教職員が募金活動を行うことが，被災地復興へとつながっていることを児童が感じられるように継続して指導していくことが児童の自発的・自治的な活動を高めると考える。

確かな学力の定着を目指した学習支援のために

守谷市立松ケ丘小学校　　石塚

1　はじめに

本校では，「自ら考えをもち，進んで伝え合う児童の育成 ～算数において自分の考えを表現できる児童をめざして～」のテーマのもと，校内研　を行っている。算数において「自ら考えをもち，進んで伝え合う」ためには，課題を　　し，解決するための基礎的・基本的な内容がしっかりと身についていなければならない。昨年度の学力　　テストの結果から本校の児童の実態をみると，基本的な計算問題は　　できているが単　な計算　スがある，わり算では　りや小数点の　理を間　う児童がやや多い，などという結果が出た。また，問題の意味がよく理解できていなかったり,少しひねられた問題になると考えられなくなってしまったりしているのが目立った。これらに　当する児童には，そのような問題にもっと習熟することが必要である。

そこで，確かな学力の定着を目指して，　課後に　充指導が必要な児童のための時間をもてるようにした。

2　実　践

（1）のびのび学習

週水，木，金曜日，児童は下校　でなく，じ方面どうしの児童が　い合って　るようにしている。そして担任に　をかけられたり，自ら希望したりする一部の児童が，　課後学習する。

○内　容

・理解が不十分な内容の個別指導
・テストでできていなかった部分の　充指導
・ドリル学習などの課題で終わっていないもの

（2）教材の準備

○　プリント学習を行う場合に，　学年までの内容にも　って復習できるよう，単　　のプリント教材を用意した。

○　授業やのびのび学習，　題などで使用したプリントを，学年別に保管する　き出し式のケースを職員室　に置いておき，必要に応じて上の学年で使用したり，　年度にも使用したりできるようにする。

3　成　果

・個人　に対応した学習を行うことができ，基礎学力の向上につながった。
・少人数で，　手なところをじっくりと見ることができるため，児童も意欲をもって学習に取り組むことができた。
・プリント教材を準備しておくことで,個々の児童に　した教材をすぐに提　することができ，学習を効果的に進めることができた。

4　課　題

のびのび学習に　　する児童は，保護者に事　に連　し，下校方法を確　することになっている。授業を進める中で　めに個別支援が必要な場合も出てくるが，　全面を考　すると，課後　に　すことはできないので，どの児童にどんな支援が必要かを見極め，計画的に支援を行えるようにすることが課題となっている。

オリジナルティーチングプランの実践
学級における円滑な人間関係構築のための教育相談の構築
～QU テストの活用を通して～

守谷市立　　中学校　担当　内田有一

1　ねらい

本校は「わかる授業と基本的生活習　の定着による生　個々の自己教育力の育成を図る。」を組　目　としている。また，生　理解に努め，心の　場所のある学校や学級をつくることを学校経　の重点の一つとしている。それは人間関　を　　できず学級に十分　応できない　　性をもつ生　が　当数存在すると考えられるからである。

生　の内面を　　し，人間関　　を支援するために，昨年度より 5 月の　　問を教育　　に切り　え，　休みに全学年の教育　　を新設した。11 月の教育　　を　め，年間 3 回保護者，生　との教育　　を行っている。それに　い担任との　者面　を行っている。

生　の内面を　　するには，日　の観察，教育　　，生活アンケートに　え QU テストによるデータを　合してみることが有効と考えた。

2　実施計画

月中　・　Uテスト実施
　　・　U　，生活アンケートに基づく第　回教育
　　・担任と生　による　者面
月下　　第　回教育
　　・生活アンケート，自己　価に基づく担任と生　による　者面
　　・第２回教育
　　・　　による学級経　の見　し
月初　・生活アンケート 自己　価に基づく担任と生　による　者面
　　・第　回教育
　　・教育　　の結果から，学級経　の方　を　　する。

3　　Uテストに関する校内研　内容

Uテストを実施するに当たり，校内研　を行った。その内容を　す。

（1）対応における３つの水準

生　指導の対応は，1　対応，2　対応，3　対応に分けられる。1　対応は　足に有効であり，2　対応は　　行　　，　　に必要である。不　足　には３　対応が必要である

（2）生　を様々なデータで読み解く。

担任には，教師との関　性が　い QU の結果に　　ックを受けないよう伝えた。大切なことは２　対応，3　対応が必要な生　は　かということである。意外な生　が問題の象　にいたり，その　もある。数値は　　に物事を　し出すが，それが全てではない。

日　の観察や教育　　などのデータと　合して見ていくことが必要であることを共通理解した。

（2）２　対応が必要な生

通　表で所見が書きにくい目立たない生　はそのままにしがちある。高校で中　する生　は，このタイプが多いといわれているので個別的に手立てを　じていく必要がある

（3）３　対応が必要な生

生　指導のプ　ジ　クトを立ち上げる必要があるか，全職員で共通理解する必要があるかを検討し，具　的な手立てを　つことが必要である

4　教育　　への活用事例

（1）5 月の教育

担任は QU テストにおいて個々の所　欲　，　　欲　の充足状態を　　した。事例として取り上げるこの学級は，　　欲　が充足していない生　が多い　向があることが　らかになった。その結果と生活アンケートを基に　者面　を行った。特に配　を要する生　は，観察による　　がデータで　付けられたり，　想外の生　が 3　対応に　当した。

男子 A は　　を強く感じており配　が必要であることがわかったため，教育　　でその状　を聞くとともに対応　について話し合った。この生　は意思表　がはっきりできず，自己の意見を話すことができないため，学級で　立していることがわかった。

者面　では，自分の意見を表現できるよう指導することを保護者と共通理解した。

（2）7 月の教育

月の　者面　では，生活アンケート，自己　価カードから男子 A の自己　定感が　いことが　められた。それ　自分の　　に対する希望も　確に言語化できず，進　指導の課題となった。生　全員の自己　定感を高めるため，日々の　，当　活動や学習における　活動で，　者に　　することを通し　められるという経験を増やすようにした。男子 A もその中で　められることが多くなった。

（3）　月の教育

育　や合唱コンクール通して，学級における　和欲　は高くなったことが自己　価カードから読み取れた。学級活動においても，協力性が高いことが観察から　められた。男子　にもそうした行動は観察され，　者面　では自分なりに進　の意　が少し　せるようになってきた。

5　今後の課題

このように　U テストと生活アンケートを組み合わせることで，個々の生　の見取りと

学級の状態を　　図的に　　できた。担任が教育　　を行う　，課題を　点化して指導効果を上げることができた。課題は　U テストの結果を活用できるか　かは，教師の力　に　右されることである。今後，生　の見取りについて研　を進めたい。

オリジナルティーチングプラン
確かな学力の向上を図る学習指導や指導形態の工夫

守谷市立けやき　中学校　担当

1　はじめに

新学習指導要領の社会科における　　の基本方　において,国　社会に主　的に生き,　共的な事　に自ら　画していく資質や　力を生　に育成するためには，基礎的・基本的な　識，　や　の確実な習　が重要であることが　べられている。また，教育委員会の学校教育指導方　においては，確かな学力を　成する　つの要素として，「主　的に学習に取り組む態度」「思考力・　力・表現力等」「基礎的・基本的な　識・　」が　げられている。つまり，国　社会に主　的に生きていく生　を育成するためには，基礎的・基本的な　識・　の習　と思考力・　力・表現力等を　ランスよく育てることを重視し，その育成のためには，学習指導の　とともに，生　の主　性が重要であると考えられる。

学力　テストの結果や授業の様子の観察結果から本校の生　の社会科における実態を考えてみると，指　された課題に対しては集中して取り組み，基礎的な　識はある程度身に付いている生　が多い。しかし，学習意欲や学力おいて，　極化の　向があり，学力の高い生　が意欲をもち　に学力を　ばし，また学習意欲の　い生　が意欲をもって，生　全員が主　的に学習に取り組むことのできる支援の　方について考えていかなければいけない状　である。

そこで，本プランにおいては，小テスト　式のドリルを使用し，生　主　の学習をすすめることにより，学習内容の定着を図る授業を実践することとした。この授業の実践を通して，様々な実態の生　が，自ら学　ことの達成感や，学び合うことの楽しさを味わい，学習意欲を向上させ，学力の定着を図ることができるであろうと考えた。

2　ねらい

小テスト　式のドリルを使用しての自主的な学習や学び合い学習を通して，生　に主的に学習することの楽しさを味わわせ，学習意欲の向上や学力の定着を図る。

3　ドリルを活用した実践　　２年　＜　治　新＞

（１）目

治　新で行われた日本の近代化への　みをとらえることができる。

（２）教材　社会の基礎ドリルについて

５～１０分程度で，教科書３時間分程度の学習内容の基本事　の確　ができる。面に学力の定着をねらいとした資　読み取りを中心とした問題で　成されている。解答が別紙でついており，自己　価及び　　価ができる。

（３）方法

週１時間程度，授業の導入時に，　習事　の確　のためにドリル学習を行う。

①　自分一人の力で解く。　も見ない　教科書・　ート・資　集等を見て行う。

②　　だちと教え合って解決する。

③　生　が指　を出し，学級全員で答え合わせをする。

（４）学習の展開（授業導入時　１５分間）

学習内容	生　の活動	教師の支援・　価
１　本時の学習課題を　る。 治　新についての復習をしよう		・生　主　でドリル学習ができるように，社会　の生　に，ドリルの進め方をあらかじめ伝えておく。
	社会　の生 ・ドリルを配布し，進め方を学級の生　に伝える。 ①　自分一人の力で解く。 　　も見ない　教科書・　ート・資　集等を見て。 ②　　だちと教え合って解決する。	・時間配分については教師が指　をする。 ・教室内を　間指導し，意欲がでない生　や　だちと学び合うこ

	③　学級全員で答え合わせをする。	とが　しい生　を支援する。
2　一人で解く。	・一人一人真　に取り組んでいる。教科書・　考書等もどこに内容が書いてあるか　ージを確　している。	一人で問題に取り組んでいる。 （態度・ドリル内容：意欲・　識）
3　　だちと教え合って解決する。	・　後の　だちに　をかけて，話し合いながら，解いている。 ・一人でできた生　も教科書を指さしながら　だちに教えている。	だちと話し合いながら問題に取り組んでいる。 （態度・ドリル内容：意欲・　識）
4　社会　の生　が指　をし，学級全　で答え合わせをする。	・学級の生　に　手を　しながら，楽しく答え合わせをしている。	意欲的に答え合わせに　している。 （態度・ドリル内容：意欲・　識）

4　考察

生　が主　となって学習をすすめるため，どの生　も気　わず楽しい　　気の中で意欲的に学習がすすんでいった。学習内容が定着している生　は，　だちに教えることにより，自分のもっている力を高めることとなった。また，学習内容が　定着な生　は，　だちから教わることにより，教科書のどの部分を読めば答えを導き出せるのか　　に教わることとなり，自学の方法を学んだり，学習内容の定着を図ることができた。１５分程度の学習であったが，どの生　もドリル学習を　成させることができ，短時間で達成感を味わうことができ，　の学習意欲へと　がった。

5　課題

学習指導要領の　　に　い，１時間あたりの学習内容が増え，１時間　との学習内容の振り返りもより重要性を増している。週１回程度の時間しか取ることができていないが，今後は週に　回か設定できるように時間の取り方を工夫していきたい。

オリジナルティーチングプラン
主体的に考え，表現しようとする生徒を育成する保健体育指導の在り方

守谷市立けやき　中学校

1　はじめに

本校では，平成 23・24 年度守谷市教育研究会指定研究への取り組みとして研究主題を「主　的に考え，表現しようとする生　を育成する教科指導の在り方」～各教科における言語活動の充実を通して～とし実践をしてきた。保　　育科においては，言語活動の充実を図るために，主に　を動かす活動を通して，コ　　ケー　　ンや感性　緒を　う活動を充実することと，グループで協　的に問題を解決するため，学習の見通しを立てる話し合いをしたり，教え合ったりする活動を充実するとし研究を進めた。

2　実践

第２学年　単　：　ンス

■単元のねらい

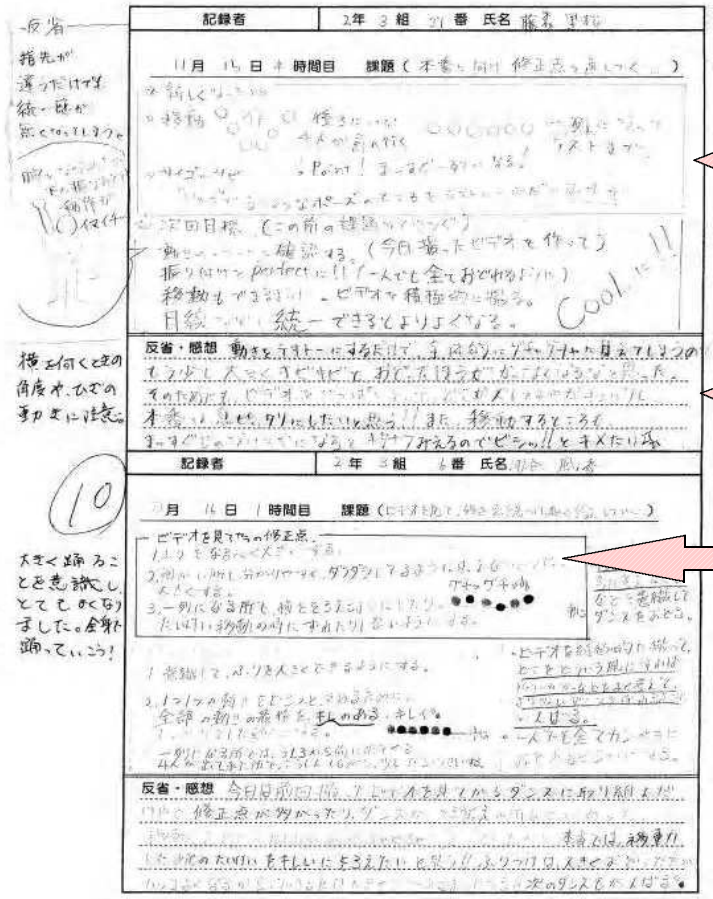
みんなで　る楽しさや　びを味わい，リ　ムの特　をとらえ，　化のある動きを組み合わせて，リ　ムに　って全身で　ることができるようにする。

■ねらいを達成するために取り入れた言語活動

した　　をもとにグループで話し合い，お　いの動きを　価し，課題を見つけ解決方法を工夫する。

■学習の展開

	学習のねらい・活動
は じ め 50 1	1　オリ　ンテー　ン ・　ンスの特性やねらいの確　。 ・グループ　成をする。(　割分担) ・学習の進め方を理解する。 ・学習カード，資　活用方法について　る。 ・学習計画を立てる。 ・　を充分に動かす。
な か 1 50 1	ねらい① リ　ムに合わせて，楽しく　ろう。 1　めあてや課題の確　をする。 2　準備　動・ストレッチをする。 3　思いきり動き，楽しく　る。 **・DVD 画　にあわせて　ップ　ップの基本のステップを　る。** 4　整理　動　　観察をする。
な か 2 50 3	ねらい② グループで協力して　ンスを　成しよう。 1　めあてや課題の確　をする。 2　準備　動・ストレッチをする。 3　　を決める。 ・　を決める。 ・グループで協力して，練習する。 4　整理　動　　観察をする。 5　学習カードに　　を記入する。
な か 3 50 4	ねらい③ リ　ーサルをし，課題を見つけよう。 1　めあてや課題の確　をする 2　準備　動・ストレッチをする。 3　リ　ーサルをする。 ・　　動または　りを　成させ発表する。 ・課題を見つける。 **・　　を活用し課題を見つける。** 4　整理　動　　観察をする。 5　学習カードに　　を記入する。
ま と め 50 1	ねらい④ 発表会を楽しもう。 1　めあてや課題の確　をする 2　準備　動・ストレッチをする。 3　発表会 ・　間と楽しく　る。 4　自己　価を　　を活用して行う。 5　学習カードのまとめをする。



資　学習　ート
　グループで１　を活用し，　時間の記　を　す。

話し合った内容や　の動についてなどを記入。

　授業の感想や　の時間の目　などを記入。

　ビデオをチ　ックする　の　イントなどを記　しているグループもある。

　った　をすぐに観て話し合いながら課題を見つけ，　する。

3　成果

　ビデオを活用し，　観的に自分たちの動きをチ　ックすることで，教えあう姿や意見を　換する姿が多く見られ主　的に活動することができた。

4　課題

　意工夫という点において，基本的なステップの　リ　ー　ンが少ないため，どのグループも　じような内容の　成であった。言語活動を充実させるためには，個々の身につけている　をさらに向上させ，より具　的な話し合い活動に発展させる必要があると感じた。

　そのためには，１学年で行う授業の中で，基本ステップの内容を検討するとともに，視　覚　（ビデオ　スクリーン）の活用の　方や　数の増　，場の設定の工夫が大切である。

マナーアップ推進事業

守 谷 し ぐ さ

守谷市立大　　小学校　担当　間根山 けい子

1　主題　　しぐさを受けて，守谷しぐさ（大　　しぐさ）を身につけることで　かな心を育み，あら　る場面において自ら考え，実践できる児童を育成する。

2　　進計画
（1）児童朝会での発表
（2）「大　　しぐさ」の　子を使っての実践
（3）「の　り」の活用
（4）「大　　しぐさ」川柳（　語）募集，　　カード作成
（5）書物の活用
（6）「大　　しぐさ」のしおり配付

3　実践
（1）児童朝会での発表
　　委員会による「　気よく，気　ちの　いあいさつをしよう」という児童集会が実施された。実　に１年生にあいさつを返してもらい，　気　くできた人にはカードがされた。その後，１年と６年，２年と４年，３年と５年が　アとなり，あいさつ　動を行った。上級生が下級生のオープンに行き，大きな　であいさつを　わした人には委員手作りのカードが　された。お　いに意識し合いながら積極的なあいさつを　わすことができた。

（2）「大　　しぐさ」の　子を使っての実践
　昨年度作り上げた　子について２年生から６年生までは　ち上がり，それ　れのクラスで　確　をした。また，１年生については　じ　子を配付し，それ　れのクラスで　の時間等に場面を想定し，一つ一つの事例について動きを取り入れながら実践した。
　また，川柳を考えるときの　考資　として身近なところにおき，いつでも見られるようにしてきた。子どもたちは楽しみながら　子を活用することができた。

（3）「の　り」の活用
　１２本の「の　り」を　　，　育　通　，職員　関に　げている。　　委員の児童が中心となって，　朝設置を行っている。
○あいさつは　　のみんなの　　ネル　ー
○いつの日か大　　いっ　い　おもいやり
○やさしさが　いっ　いつまった　大
○大　　学校じ　うが　思いやり
○ありがとう　その一言だけで　　っか　か
○目の　の　手を思って　　かしげ
○この　の　みんなの　　しぐさから
○すれちがい　あいさつしあう　大
○ありがとう　言　で心が　あたたかい
○せまい　　自　にできる　　き
○　のかかと　みんなそろうと　気　ちいい
○やさしさで　　をつくる　思いやり

（４）「大　　しぐさ」川柳（　語）募集，　　カード作成

全校児童から川柳を募集し，その中から１２点の作品を選出した。どの作品も心温まる言　が多く，心を　たれた。選出された作品については，子どもたちが通る階　に　　する　定である。

○ひとりひとり　かならずもってる　よいところ
○どり　くして　にがてなものを　　きとばせ
○やさしさで　みんなのきずな　つながるよ
○やさしさで　みんなのえがお　また　えた
○あきらめない　こころがつよい　しるしだよ
○きれいなね　ことばづかいで　きもちいい
○あそ　とき　ルールをまもって　たのしくね
○ともだちと　あそんでまなんで　なかよしに
○きくときは　かおみてめをみて　こころみて
○あいさつで　じ　んもあいても　　か　かに
○べんき　うは　あきらめないで　チャレンジだ
○あいさつは　なかまづくりの　ま　うだよ

（５）書物の活用

各学年に「　　しぐさ」「せかいいいちのおともだち」「おっちこチ　イ　」の３　の本を配付し，読み聞かせに使ったり，時間があるときには一人読みしたりするなど，積極的に活用する姿が見られた。また，書かれている内容についての意見　換などを行うことで，図書室への　室回数が多くなり，読書の幅にも広がりが見られた。

（６）「大　　しぐさ」のしおり配付

委員会が中心となっての　りに書かれている川柳をしおりとして作成し，全児童に配付した。子どもたちがしおりを手にすることで温かさを感じて　しいと　っている。

（７）その

生活の中でも「大　　しぐさ」を意識したようすが見られた。６年生の国語の中で「大　　小の　さを紹介するとしたら，どんな内容を紹介しようと考えますか　」と聞いた。この問いに対して，　のように答えた児童がいた。「階　を上がり　りするときには必ず右　を　き，　つからないようにしています。」　の生活の中でも少しずつ「大　　しぐさ」が　　しているのではないかと感じた場面であった。

４　成果と今後の課題

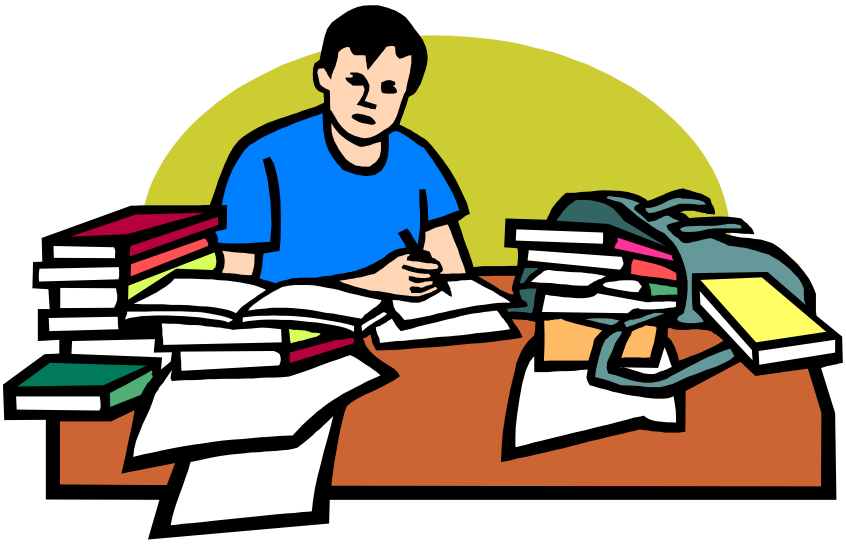
（１）成果

全校児童が「　　しぐさ」を理解し，少しずつではあるが「大　　しぐさ」につながってきているのではないかと感じる。また，川柳の内容についても言　が　かになってきている。さらに，言　だけではなく，行動にも表れてきている。

（２）課題

「大　　しぐさ」の　子については，高学年が考えた事例を　　し，いろいろな場面で生かしていきたい。そして，子どもたち自身がいろいろな場面で「大　　しぐさ」を意識し，自分たちで考え，実践化を図らせたい。

指導室事業実績
委嘱関連一覧
教育論文応募一覧



守谷市若手教員育成研修会の実施

守谷市教育委員会

1　目　的

（1）市内小中学校において，提案授業による研　会を実施し，　観した　手教員と提案授業者とで研究協　を行うことにより，　手教員の授業力の向上を図る。

（2）　手教員と教育　との　　等により，教職員としての意欲・資質　力の向上を図る。

（3）上記（1）の研究協　において，提案授業者が教材や授業　成の工夫点等について　言することで，　ドルリー　ーの育成を図る。

2　対　象

（1）初任者・２年　・３年

（2）上記（1）以外で，学校　が　　を　めた者

3　研　の実践

	期　　日	会　　場	指導者	内　容　等
第１回	７月２４日（　） （初任者対象）	守谷市　所	教育	話及び
第２回	９月１０日（月） （初任者対象）	守谷小学校	見　　子　教 佐々木　子　教	理科の授業　観(小４) 研究協
第３回	９月２１日（金） （２年　対象）	守谷小学校	子　教	の授業　観(小６) 研究協
第４回	９月２５日（　） （３年　対象）	守谷小学校	原　　子　教	国語の授業　観(小５) 研究協
第５回	２月１４日（木） （２年　対象）	松ケ丘小学校	田　　子　教	国語の授業　観(小６) 研究協
第６回	２月１９日（　） （初任者対象）	所ケ丘中学校	木　　子　教	の授業　観(中２) 研究協

具　物を　しての

小グループでの活動

自分の考えを

どの　開授業においても，守谷市の教育目　や学習指導要領のねらいに　るための工夫が見られた。特に授業の導入部分においては，児童生　が「な　だろう」，「やってみたい」と思うような学習課題を設定したり，　　を効果的に活用したりする工夫も見られた。また，言語活動の充実を図るために，自力解決のための時間を設定するとともに，　　う児童生　には個別指導を行いながら，発問や学習　態など様々な工夫が見られた。授業のまとめの　階では，文　を　確に読み取ったり，根　に基づいて　　をしたりしながら，自分の考えや意見について自　をもって　　する姿が見られた。これらの授業を　観することで，　手教員にとっては，話す態度や聞く態度等の学習習　の大切さなど多くのことを学　　会となった。

４　研　の成果

本年度より　手教員を対象として，市　自の授業研究を中心に，授業力，教員としての資質　力の向上を目的に研　会を実施した。授業　観後の研究協　では，授業者が授業のねらいや本時に身に付けさせたい児童生　の　力についての　　をすることで，　手教員がこれまで　と進めてしまっていた授業を見つめ　し，今後様々な場面において授業を　　していかなければならないという意見も聞かれた。また，授業についての意見　換だけでなく，学級経　，教科経　，児童生　との人間関　づくり等について，経験　　な教員から話を聞くことで，今後の　考になったとの　が聞かれた。そして，　手教員　　でも，日　　んでいることなどについての　　換ができ，不　解　の一つにもつながった。

５　今後の課題

今年度は，小中の　分なく合　での研　会を実施したが，より専　性を高めたり教科指導等について充実を図ったりするための研　会の在り方について考えていく必要がある。そして，授業研究を中心とした研　会を進めるにあたっては，特定の教員だけが授業を　開するということではなく，多くの中　教員が積極的に　手教員のために授業を　開するなど　ドルリー　一等の育成も重要になってくる。また，様々な教育問題に　　に対応できる　手教員を育成するための研　会等の充実を図っていくことも重要である。

＜資　１　指導案＞

第２学年４組　道徳 学習指導案　　指導者　鈴木 優子

主題名 資料名	国際理解　内容項目４－（10） 東の太陽と西の新月の「絆」（えにし）をたどって
本時のねらい	明治時代，遭難したトルコ船「エルトゥールル号」の救出にあたった日本人の人間愛あふれる行動や中東の結びつきを強めたことに気付き，日本人としての誇りをもって世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする態度を育てる。
本時の見どころ	① 導入部の資料提示。（トルコ共和国への興味・関心と学習意欲の向上。） ② 展開部の２段構成。（時間的経過・並列的事実を理解，展開後段→中心発問について考察，多様な意見交流の方法を模索。） ③ 資料の精選と提示の工夫。（パワーポイントによる自作資料と板書の併用。）

展　開

	生徒の活動	教師の記録欄（工夫点や気付いたこと）
導入	１　本時の学習課題に関連する資料を提示して，学習意欲を高める。 (1)　事前アンケート結果 (2)　トルコ共和国に関する資料	
展開①	２【価値の追求・把握②】 トルコ軍艦遭難によるイラク日本人救出（1985年）の事実について知る。 ・日本人に対する時代を超えた感謝と全（「ご恩返し」）	

研　会で使用した学習指導案は，展開部分の児童生　の活動について作成してもらい，　観した　手教員が，指導上の　意点や意欲を高めるための工夫等について気付いたり，感じ取れたりすることができるような　式にした。

研　会で用いた指導案

＜資　２　　手教員の感想＞

○　初任者が　　した研　会は３回でしたが，どの研　会も　話，　　会，授業　観，協　すべてが実りあるものでした。その中で，教育　の後　先生がおっし　った「　事をすることは自分を見つけるためのプ　セスですよ」というお話を聞いて，　だった教師になって　足してはいけないと　めて実感したのと　時に，自分がありたいと思う姿を　に　い　めて行こうという意識が強くなりました。

○　　の授業の発問の場面では，一問一答　式にならずに　り下げた質問をすることで上　だけでない　心をつくことができることを　り，　も記　に　る　　の授業ができるように努めていきたいと思います。

○　どの授業でも，生　を受け入れるということの大切さや，　　することの大切さを学びました。また，導入部分や学習　態の工夫により，学びの楽しさを味わわせる大切さを教えていただきました。研究協　の中でも，自分が話す内容にていねいに返答してくださったり，共感してくださったりしたこともとても　しく，見習うことばかりの研　会でした。

平成２４年度指導室事業実績

訪問に関すること

１　計画訪問

学校の課題及び市学校教育への取組み状況の把握と援助･指導

（※　研究指定校にあっては指定校　問を　ねる）　　＜　　計画　問　行＞

大　　小学校	１０月１９日（金）	
大　小学校	１０月１２日（金）	
高　小学校	１１月２１日（水）	６月１３日（水）（特別支援集合指導）
守谷小学校	５月２３日（水）	
内小学校	５月１８日（金）	
所ケ丘小学校	７月　４日（水）	５月３０日（水）（特別支援新設校　問）
小学校	６月２６日（　）	
松　　小学校	９月１１日（　）	
松ケ丘小学校	１０月　５日（金）	
守谷中学校	１１月　９日（金）	
中学校	１１月１５日（木）	
所ケ丘中学校	９月２４日（月）	１０月２４日（水）（生　指導　問）
けやき　中学校	６月　６日（水）	６月１３日（水）（不　校対　　問）

２　指定校訪問

研究指定校への支援・助言

３年	守谷小学校	１１月２２日（木）研究発表会
		６月１１日（月），　６月２１日（木）
２年	内小学校	１１月　２日（金）研究発表会
		６月　４日（月），　６月１９日（　）
	けやき　中学校	１１月１６日（金）研究発表会
		１０月１０日（水）
１年	所ケ丘小学校	７月　４日（水），　１月３０日（水）
	小学校	６月２６日（　），１０月２３日（　）

３　教育委員会合同訪問

各校の経営の概要や課題及び要望等の把握

５月２２日（　）第１回　　内小，大　　小，松　　小，　所ケ丘小，けやき　中

５月２５日（金）第２回　松ケ丘小，　　小，高　小，　所ケ丘中

６月　８日（金）第３回　大　小，守谷中，守谷小，　　中

４　要請訪問

各学校や教育研究会研究部の要請に応じて行う援助・指導

校内研	７月　６日（金）	大　　小学校
市教育研究会生　指導研究部研	８月　１日（水）	守谷市　所小会　室
市教育研究会教育課程研究部研	８月　１日（水）	守谷中学校
校内研	１２月　３日（月）	大　　小学校
校内研	１月２１日（月）	大　　小学校

委員会活動に関すること

５　外国語活動推進委員会

外国語活動の積極的推進とＡＬＴ活用に関する研究協議及び研修

５月１６日（水）　第１回　今年度の活動方　確
７月　９日（月）　第２回　小学校授業研究（松　　小学校）
１０月　３日（水）　第３回　中学校授業研究（けやき　中学校）

６　情報教育推進委員会

学校情報教育推進計画の策定及び情報教育の推進

５月２２日（　）　第１回　今年度の活動計画
１０月　４日（木）　第２回　授業研究会（大　小　　先生）
２月　５日（　）　第３回　今年度のまとめと　年度への課題

７　社会科副読本編集委員会

社会科副読本の活用に関する研修

６月１２日（　）　第１回　今年度の活動計画
８月　３日（金）　第２回　　価テスト，　ーク　ートの　　作業
１月３１日（木）　第３回　今年度のまとめと　年度の課題

８　生徒指導対策委員会

生徒指導に関する研修

７月１７日（　）　第１回　各校の現状と課題についての協
１２月　６日（木）　第２回　不　校対　研究協　会
＜　師＞　　市教育委員会学校教育　　員
先生
２月１４日（木）　第３回　本年度のまとめと　年度への課題

９　就学指導委員会

障害のある児童･生徒の早期発見と適正な就学，指導についての協議，判定

６月２８日（木）　第１回　在　児童生　の　定及び今年の活動について
１１月　１日（木）　第２回　　学，在　児童生　の　　と　定
１１月２９日（木）　第３回　　学，在　児童生　の　　と　定
１月１７日（木）　第４回　　学，在　児童生　の　　と　定，
平成２５年度の　学　定の確

研修等に関すること

10　教育相談研修講座

事例検討，　ールプレイによる教育相談についての基礎研修

７月２５日（水）　＜　師＞　スクールカウンセラー　　原　　人　先生

11　コンピュータ活用研修

コンピュータの活用に関する実技研修

７月３１日（　）　会場　　中学校　校　支援　フトの　作研

12　市人権教育研修会・市巡り研修

市人権教育に関する理解啓発のための研修，市の歴史及び施設の理解

７月３０日（月）　　初任者・新　　入者への人　教育研　及び市施設等の理解

13　市初任者・新規転入者研修

初任者・新規転入者の資質向上のための研修

４月１６日（月）　　守谷市の　要，学校教育について

４月２５日（水）　　初任者・新　　入者への人　教育研　及び市施設等の理解

14　生き生き学校づくり研修

生徒自らが学校生活改善を目指した活動を行うことを通して，生徒の規範意識や社会性の向上を図るための研修

７月２３日（月）　　しぐさについて

市内中学校の生　会活動の取組及び　　換

15　若手教員研修

市内小中学校において，提案授業による研修会を実施し，参観した若手教員と提案授業者とで研究協議を行うことにより，若手教員の授業力の向上を図るための研修

第１回　７月２７日（　）教育　　話及び

第２回　９月１０日（月）授業　開（守谷小　　見　子先生・佐々木　子先生・理科）

第３回　９月２１日（金）授業　開（守谷小　　子先生・　　）

第４回　９月２５日（　）授業　開（守谷小　原　　子先生・国語）

第５回　２月１４日（木）授業　開（松ケ丘小　　田　子先生・国語）

第６回　２月１９日（　）授業　開（　所ケ丘中　　木　子先生・　　）

その他の業務に関すること

16　保幼小中連絡協議会関係

学校種間ごとの連携

・保　小連　協　会　　１１月２８日（水）　　小学校

・小中連　教育　進事業　＜中学校と学　内小学校との　流活動＞　　時

17　市生徒指導連絡協議会及び市豊かな心育成推進協議会

生徒指導及び豊かな心育成に関する関係諸機関との連携，情報交換

７月　２日（月）　　総会及び　察　，　少年指導委員　関　団　との

18　特別支援学級担当者・療育教室・伊奈養護学校連絡会議

障害のある幼児，児童に関する情報交換及び指導に関する協議

７月　５日（木）　　第１回　市，　育教室，　奈　護学校及び各校の特別支援教育の取り組み

１１月　７日（水）　　第２回　　学及び指導に関する　　換

１月２４日（木）　　第３回　進学，　　及びディスレク　ア児童生　への支援について

平成２４年度　委嘱関連事業等一覧

学校名	委　名等	委　等団	年	備考
大　　小学校	事業 マナーアップ(守谷しぐさ)　進事業 オリジナルティーティングプラン事業	市　所 市教委 市教委	１２ 単年 単年	
大　小学校	事業 特　ある学校支援事業	市　所 市教委	１２ 単年	
高　小学校	事業 特　ある学校支援事業	市　所 市教委	１２ 単年	
守谷小学校	事業 地域で支える学校づくり事業 オリジナルティーティングプラン事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校 小学校理科教育　進事業	市　所 市教委 市教委 市教委・市教研 教委	１２ 単年 単年 ３ １	
内小学校	事業 小学校理科教育　進事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校	市　所 教委 市教委・市教研	１２ ２ ２	
所ケ丘小学校	事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校	市　所 市教委・市教研	１２ １	
小学校	事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校	市　所 市教委・市教研	１２ １	
松　　小学校	事業	市　所	１２	
松ケ丘小学校	事業 オリジナルティーティングプラン事業	市　所 市教委	１２ 単年	
守谷中学校	事業 オリジナルティーティングプラン事業 特　ある学校支援事業	市　所 市教委 市教委	１２ 単年 単年	
中学校	事業 地域で支える学校づくり事業 オリジナルティーティングプラン事業	市　所 市教委 市教委	１２ 単年 単年	
所ケ丘中学校	事業	市　所	１２	
けやき　中学校	事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校 オリジナルティーティングプラン事業	市　所 市教委・市教研 市教委	１２ ２ 単年	

平成２４年度　教育論文応募者一覧

名（学校名）	文主題	応募先	備考
村松　静 大　　小学校	**自閉症児童の人間関係力を高めるための指導の在り方** ～　流学級との連　を通して～	会	
関　慶広 守谷小学校	**仲間との関わりの中で，運動の楽しさや喜びを味わうことができる体育学習の工夫** ～マット　動の集団　　を取り入れた学習を通して～	教育研究会	
中村　麻理子 池田　恭 松　　小学校	**ことばの遅れがある児童の構音指導** **歴史を学ぶ楽しさを味わい，その大切さに気づく児童を育てる社会科指導** ～　末から　和にかけての　史学習を通して～	会 会	
山口　亮生 濵野　則子 倉岡　正英 倉岡　正英 守谷中学校	**書く力を高める語彙指導の在り方** ～「意味マップ」の活用を通して～ **知的障害の主役が「生きる力」育む支援の在り方** ～「教科・領域を合わせた指導」に　点をあて，生　の　意な面を生かした成　　験を積み重ねる実践を通して～ **運動の楽しさや喜びを味わうことができる学習指導の在り方** ～中学校第１学年　上　　「　　」における　達と自分の　へのかかわりを通して～ **「ボールをもたない時の動き」の習得と活用を目指した体育か学習指導の展開** ～小学校第６学年「　フトボール」における言語活動の充実を図る工夫を通して～	教育研究会 教育研究会 教育研究会 会	
廣瀬　幹郎 　　中学校	**数学のよさを感じ取り数学的思考力を育てる学習指導の在り方** ～　習事　を基にして数や図　の性質などを見いだす数学的活動を通して～	会	最

平成２４年度

守 谷 市 の 学 校 教 育

発　行　　平成２５年３月

発行所　　守谷市教育委員会
事　　指導室